

「静岡市生物多様性シンポジウム」が開催されました

天岸祥光



山階鳥類研究所名誉所長 山岸 哲氏

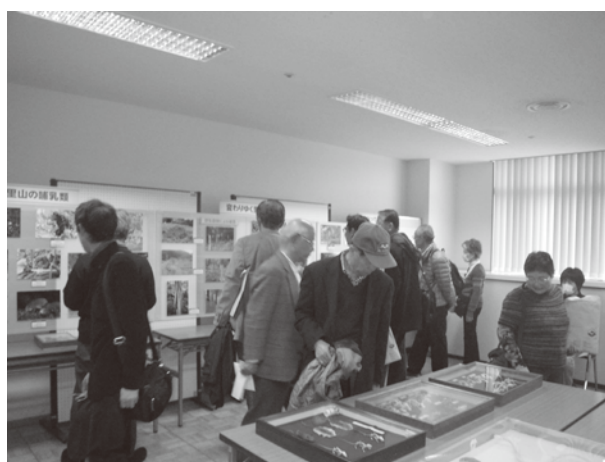
2013年2月16日アイセル21で開催されたこのシンポジウムは、「静岡市生物多様性地域戦略」に始まり、「みんなで参加し伝える、生きものつながり」とか、「清流の都・静岡の将来の子どもたちへ」など、パンフレットやビラによってさまざまなタイトルがついているので、ふらりと参加したものにとっては（私のように）、全体で何が行われているのかなか要領がつかめないくらいがありました。

要は、1992年に地球サミット（ブラジル・リオデジャネイロ）において「生物多様性条約」が採択されたのをきっかけに、2010年のCOP10（日本が議長国）で「生物多様性国家戦略2010」が制定されたのを受け、「静岡市生物多様性地域戦略」が2011年に静岡市で制定され、それが今日のような展開につながっているわけです。

静岡市のその戦略は「人と生きものが共存する社会づくり」、「自然に守られ、生きものの恵みを受ける社会づくり」、「自然を学び、育む社会づくり」、「生物多様性に配慮した社会づくり」の4つの重点的課題の基に、リーディングプロジェクトとして、「南アルプス・井川エコパークプロジェクト」、「里地里山保全・再生、人づくりプロジェクト」、「生きものモニタリングプロジェクト」を掲げ、当日行われた三つのパネルディスカッション「知りたい！行きたい！南アルプス・井川を目指して」、「人と自然の絆の場、里地里山とどう付き合うか？」、「静岡市の自然と、生きもの（の）つながりを守るためには？」にやっとな



パネルディスカッション



NPO 自然博ネットの展示物

ながるわけです（もう少し全体像を明確にしてもらえたら、と思いました）。

パネルディスカッションに先立ち、山岸 哲氏（山階鳥類研究所名誉所長）の記念講演「トキはなぜ禿げたか」～生物多様性とは何か～がありました。これはなかなか面白い話で、トキは何万年も前からドジョウだけを食べていたわけではなく、田んぼの中に深く頭を突っ込み（だから禿げてしまった！禿げたかが死肉の中に頭を突っ込んで禿げたように）、実にさまざまなものを食べて生き延びてきた、いわば生物多様性こそがトキの生命を維持してきたという話でした（間違っ

て解釈しているかもしれませんが）。NPOからは、三つ目のパネルディスカッションに、板井、高橋、湯浅の3氏の理事がパネラーとして登壇され、展示に三宅副理事長が奮闘されました。私は二つ目の会場に出席し、所属している棚田「清沢塾」の発表を見守っていました。